



## 13 滋賀県長浜市



● 金丸弘美

かなまる・ひろみ／食環境ジャーナリスト。1952年生まれ。執筆活動のほか食のアドバイザー業務を手がける。著書に「ゆらしい島のスローライフ」(学研)、「創造的な食育ワークショップ」(岩波書店)、「田舎力」ヒト・夢・カネが集まる5つの法則」(NHK生活人新書)など多数。

# 黒壁の町屋を 活かしたB&B

**滋** 賀県長浜市は参道のアーケードを撤廃し、昔の景観を活かし、創造性のある地域を生み出した。

若い人のクラフト、工芸、洋品店などが古くからの商店と混在して並ぶ。この20年間で空き店舗を含めて180軒がリニューアル。現在は200万人が訪れる町となった。

商工会議所の吉井茂人さんは「あまりお金がないので、あるものを上手に使うということですね」と笑う。

大きな転機は、70年に郊外に大規模な店ができて始め、中心市街地の将来に不安が始めたことからだ。商店街、商工会議所、市とが一体となり、町づくりの取り組みが始まった。

その後、明治期の黒壁の愛称で親

しまれた銀行の建物が売りにでて、地域の資産がなくなるとの危機感から地元の人が出資して第3セクター(株)黒壁を設立し、土地と建物を買取り、それまでになかったガラス工芸館やレストランなどを創った。その成功から、地域の人たちが出資し、市や商工会議所も連携し、町を残し、ものづくりのしつかりした店舗を募集、またはお願いして入れていくという形をとってきたという。

最新の事業は、黒壁を含めた16店舗支援など遊休不動産活用会社(株)新長浜計画の設立だ。この新会社が開けたのが、町屋を使った宿泊施設と駐車場跡に設けたB&B(朝食と宿泊施設)、それにレストランを併設した「季の雲」。宿泊施設がなかったことから生まれたものだ。

江戸期からあった民家を一軒まるまる使う宿泊施設にリニューアルした。町屋のたたずまいを活かした庭のある贅沢な空間。シャワーやキッチンも備えている。2棟がある。歴史と文化と快適さが同居するという古くてモダンな造りである。

道路向かいには、地域食材を使ったフレンチレストランとギャラリー、その上と横に連なる形で、景観に配

慮したB&Bがある。裏には庭が広がり、ここでは工芸の展示イベントなどが行われる。

B&B内部はフローリングで、木材を使った落ち着いたデザイン。町屋もB&Bも宿泊と食が別棟という形で、あとは商店街にあるさまざまな店舗での買い物や食事、神社仏閣、伝統的な山車の展示館、ガラス工芸、フィギュアの博物館などを楽しんでもらうという趣向だ。

「季の雲」の運営者は、地元でイタリアン・レストランとギャラリーを営んでいる中村豊実さん、敬子さんご夫妻。豊実さんは趣味の陶芸から転身、敬子さんは長浜の町づくりの会社「黒壁」に携わり、その後、ご主人と店をもった。

新しい宿泊施設ができるにあたり、その運営に白羽の矢がたったのが中村さんご夫妻。地元でのレストランの人気とものづくりとコーディネートとのセンスの良さが目にとまり、口説かれたのだという。

町では、さらに、他の町屋をつなぐ回廊の店舗づくりなどが現在も進行中。「長浜は商工で栄え、江戸期に町民が自立した町づくりをしていた。そのDNAですかね」とは黒壁の代表取締役常務の伊藤光男さん。



【上】「季の雲」の外観と中庭  
【右】B&Bの内部